

## 第6学年算数科学習指導案

児童 男子6名 女子5名 計11名  
指導者 青野大祐

### 1. 単元名 「分数のかけ算とわり算を考えよう(2)」

### 2. 単元の目標

除数が分数である場合の除法計算の意味とその計算のしかたについて理解し、それを用いる能力を高める。

〔関心・意欲・態度〕 ・分数÷分数の計算のしかたを、分数の性質や既習の計算と関連づけて考えようとする。

〔数学的な考え方〕 ・分数の性質や既習の計算をもとにして、分数÷分数の計算のしかたを考える。

〔表現・処理〕 ・分数÷分数の計算ができる。

〔知識・理解〕 ・分数÷分数の計算の意味やその計算のしかたを理解する。

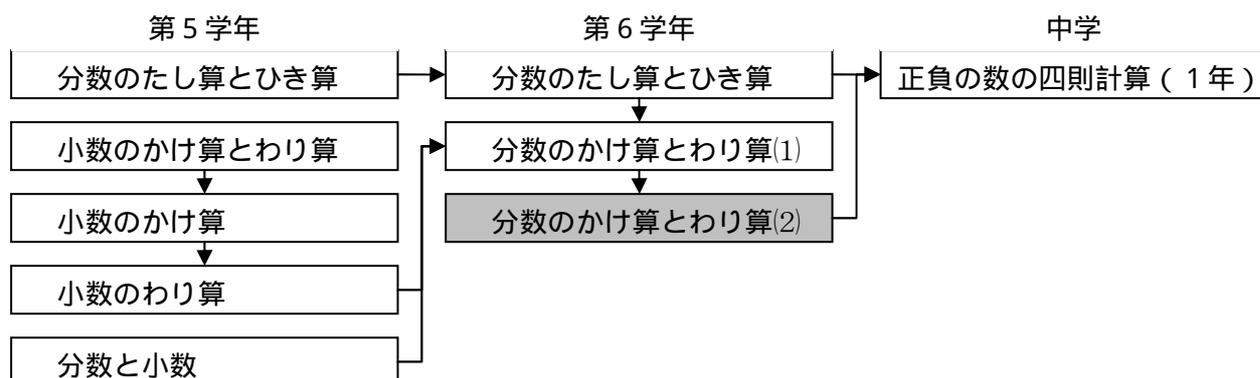
### 3. 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、3つの小単元から構成されており、それぞれの段階において分数の除法についての理解を深めていく。

第1小単元では、分数÷分数の指導について段階を追って学習を進める。始めに分数÷分数の意味をわる数が整数の場合と対比させながらとらえる。次に、約分ができる数値の計算を取り上げ、乗法のとくと同様に途中で約分することで計算が簡単にできることを確かめさせる。整数÷分数の計算では、整数を分母が1の分数とみることで、分数÷分数と同様に計算できることを押さえる。さらには、分数の乗法・除法が混合している計算では、すべてを乗法に直して計算することを理解させる。最後には、文章から問題文を考えさせ、分数の乗除の立式について理解を深める。第2小単元では、時間の分数表示を扱っている。時間は60進法なので計算の仕方が難しい面もあるが、時間の分数表示はその大きさを視覚的に表現でき、わかりやすいとも言える。そのよさを児童に感じさせていきたい。第3小単元では、分数倍に関する学習を段階的に進める。始めに、赤、青、黄の3本のリボンの長さを比較する場面を通して、分数倍を求める。次に代金を比較する場面を通して、基準量と分数倍から、分数倍にあたる量(比較量)を求める。最後には、倍を表す数と比較量の関係を知って、基準量を求める方法を理解させる。

## 教材関連図



### (2) 児童について

児童は、今まで新しい問題に直面したときに既習の図や言葉の式をもとにして問題解決に取り組んできた。多くの児童は、多少複雑な計算にも一生懸命取り組むことができるが、中には立式ができて計算を正しくできない児童も見られる。また、年齢的にも周りを意識しだす時期であり、全体的に間違えることに対する抵抗感が強く、自分の考えを話せなかったり、友達の発表でわからないことがあっても聞き返せなかったりする場面がよく見られる。

分数については、分数の意味や小数への直し方、たし算やひき算の計算の仕方など、だいたいの既習については理解している。しかし、商分数や同値分数などの概念に対する理解は浅いように思われる。また、数直線図や除法のきまり等、既習ではあるが十分に身につけていないと思われる。本単元に必要な既習を単元に入る前に復習し、その既習を生かした学習展開を図っていきたいと考えている。

### (3) 指導にあたって

分数の除法の計算方法は、「除数の分母と分子を入れかえた数をかける」であり、この計算方法を覚えて計算することは、児童にとって決して難しいことではない。しかし、この計算方法を考え出す過程を児童が理解するとなると、かなり困難だと思われる。それは、児童にとって等分的場面で「 $\div \frac{3}{4}$ 」の意味を「 $\frac{3}{4}$ 等分する」ととらえた時、どのように分けているのかがイメージしにくいからである。前単元では、「 $\div$ 整数」であったため、面積図から等分するというイメージをもつことができた。しかし、児童が本単元で「 $\div$ 分数」の意味を面積図で表すことはかなり困難だと思われる。そこで、「 $\div$ 分数」の意味を、1つ分の量を求める演算（全体量 $\div$ いくつ分 $=$ 1つ分の量）ととらえ直し、数直線図を手がかりにして理解させていきたい。

児童が考えをもつために有効的な方法として、数の関係をとらえさせるために問題の構造を数直線図にかき表す活動を取り入れ、前単元「分数のかけ算とわり算(1)」から通して繰り返し取り組ませたい。また、考える場面ではじっくりと考えさせ、既習を生かして自力解決させていきたい。そのため既習内容を示した壁面掲示を効果的に行うことで、児童が問題解決を図る場面で想起しやすいようにしたい。また、グループでの話し合いを取り入れるなど、お互いの考えを交流しやすい雰囲気をつくりながら、学習を進めていきたい。

#### 4. 学習指導計画（全 1 1 時間）

小単元	時数	学習内容
1. 分数のわり算	2 (本時 $\frac{2}{2}$ )	・分数÷分数の計算のしかた
	1	・分数÷分数で約分のある場合，整数÷分数の計算のしかた
	1	・3口の分数の乗除混合計算のしかた
	1	・分数の乗除の立式
2. 時間と分数	1	・時間の分数表示
	1	・力をつけよう
3. 分数の倍と かけ算・わり算	1	・分数倍の第1用法
	1	・分数倍の第2用法
	1	・分数倍の第3用法
4. まとめ	1	・たしかめよう

#### 5. 本時について

##### (1) 目標

数直線図や計算のきまりを用いて，分数でわることの意味を理解する。

##### (2) 本時と仮説とのかかわり

本時では，仮説2「自分の考えや思いを，既習を生かして表現できるようにする」に重点を置いて指導した前時( $\frac{1}{2}$ 時)に続けて，児童がお互いの考えを発表し合う場面から展開することで，仮説3「比較検討の構想をもとに，よりよい解決方法へと練り上げていくようにする。」に迫りたいと考える。

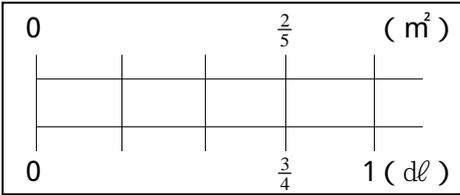
比較検討の場面では，まず児童がどの既習をもとに考えたかを明確にしてから発表させることで，それぞれの考えのもととなっている既習の関連性を明らかにしたい。さらに，聞く側の児童が発表者の思考にそって考えられるように，発表者は説明を加えながら発表させるようにしたい。また，質問や意見は発表後にとり，計算に誤りがないか，既習は正しく使われているか，納得できる考え方になっているかなどの妥当性を検討するようにしたい。その上でどちらの方法も既習を生かしたよい考え方であることを押さえ，より簡単に素早く計算できる方法を問うことで有効性の検討に進み，除数の逆数をかけることで答えが求められていることに気づかせ，類題を通して一般化を図りたいと考えている。

ふり返りの場面では，今日の学習で理解できたことばかりではなく，この練り合いでの自分の思考の変化や友達の発表した内容に触れた感想などを取り上げ，次時への意欲付けを図りたい。

##### (3) 評価

・数直線図や計算のきまりを用いて，分数でわることの意味を理解することができる。

(知識・理解)

	学習段階	学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<p>つかむ</p> <p>10</p>	<p>課題把握</p>	<p>問題把握</p> <p><math>\frac{3}{4}</math> dlのペンキで、板を<math>\frac{2}{5}</math> m<sup>2</sup>ぬれました。このペンキ 1 dlでは、板を何m<sup>2</sup>ぬれますか。</p> <p>数直線をかく。</p>  <p>立式する。</p> $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ <p>課題を把握する。</p> <p>分数÷分数の計算のしかたを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入では<math>\frac{3}{4}</math> dlを dlとして提示し、に入る数を児童に予想させたい。既習から児童の多くは = 整数と考えられるので、本時の立式や見通しの手がかりとさせたい。</li> <li>問題をノートに書き写した児童から数直線をかくように指示する。</li> <li>立式後、前時との違いを確認して課題を設定する。</li> </ul>
<p>見通す</p> <p>10</p>	<p>予想見通し</p>	<p>考え方の見通しを立てる。</p> <p>数直線図から<math>\frac{1}{4}</math> dlでぬれる面積を求めて4倍にして求める。</p> <p>わり算のきまりを使って、わられる数を整数に直して求める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもつことは、たいへん困難だと思われるので、以下の順序で展開を図りたい。</li> <li>個々に見通しを考え、話し合う。</li> <li>見通しがもてない児童が多い場合には、数直線の<math>\frac{1}{4}</math> dlでぬれる面積に注目させたり、ヒントカードを提示したりする。</li> <li>それでも見通しがもてない児童には、教科書を見て、その考え方を理解し、説明できるように努めさせる。</li> <li>最後には、壁面掲示などを手がかりにしなが、グループで相談する時間をとる。</li> </ul>

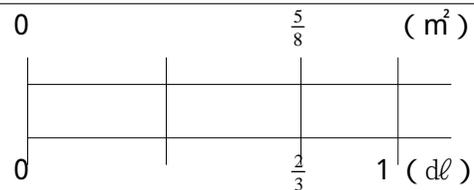
<p>や っ て み る</p> <p>25</p> <p>前 時</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">自力解決</p>	<p>数直線図から <math>\frac{1}{4}d\ell</math> でぬれる面積を求めて4倍にして求める。  <math>\frac{2}{5} \div 3 \times 4 = \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math> A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p> <p>わり算のきまりを使って、わられる数を整数に直して求める。  <math>(\frac{2}{5} \times 4) \div (\frac{3}{4} \times 4) = (\frac{2}{5} \times 4) \div 3</math>  <math>= \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math>  A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力解決を行い、答えまで出すことができたなら、画用紙に整理して書き直し、自分の考えのポイントをメモ書きするように指示する。</li> <li>画用紙に書き終えた児童がいた場合には、他の方法でも挑戦するように指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〔数学的な考え方〕</p> <p>数直線図やわり算の計算のきまりを用いて、分数÷分数の計算の仕方を考えている。(観察・ノート)</p> <p>A: 2つ以上の方法で分数÷分数の計算の仕方を考えている。</p> <p>B: 数直線図やわり算の計算のきまりを用いて、分数÷分数の計算の仕方を考えている。</p> <p>C: 見通しがもてない児童には、教科書を見て、その考え方をグループなどで話し合わせる。</p> </div>		
<p>本 時</p> <p>く ら べ る</p> <p>30</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">比較検討</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">妥当性の検討</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">関連性の検討</p>	<p>自分の考えを発表する。</p> <p>(1) 各々の考えを発表し、その妥当性について検討する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>数直線図から <math>\frac{1}{4}d\ell</math> でぬれる面積を求めて4倍にして求める。  <math>\frac{2}{5} \div 3 \times 4 = \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math>  A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>わり算のきまりを使って、わられる数を整数に直して求める。  <math>(\frac{2}{5} \times 4) \div (\frac{3}{4} \times 4) = (\frac{2}{5} \times 4) \div 3</math>  <math>= \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math>  A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p> </td> </tr> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <math>\frac{1}{4}d\ell</math> でぬれる面積を求めて4倍にする考え </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 分数÷整数の形に直す考え </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どちらの考えでも答えは <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math> になる。</p> </div>		<p>数直線図から <math>\frac{1}{4}d\ell</math> でぬれる面積を求めて4倍にして求める。  <math>\frac{2}{5} \div 3 \times 4 = \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math>  A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p>	<p>わり算のきまりを使って、わられる数を整数に直して求める。  <math>(\frac{2}{5} \times 4) \div (\frac{3}{4} \times 4) = (\frac{2}{5} \times 4) \div 3</math>  <math>= \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math>  A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p>
<p>数直線図から <math>\frac{1}{4}d\ell</math> でぬれる面積を求めて4倍にして求める。  <math>\frac{2}{5} \div 3 \times 4 = \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math>  A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p>	<p>わり算のきまりを使って、わられる数を整数に直して求める。  <math>(\frac{2}{5} \times 4) \div (\frac{3}{4} \times 4) = (\frac{2}{5} \times 4) \div 3</math>  <math>= \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}</math>  A. <math>\frac{8}{15} \text{ m}^2</math></p>				

<div data-bbox="248 174 442 365" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">有効性の検討</div>	<p>(2) より簡単な計算の仕方を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習をもとにしたそれぞれの考えを大いに認めつつ、板書を手がかりにして、どちらの方法でも除数の分母と分子を入れ替えた分数を被除数にかけると答えが求められることに気づかせる。</li> </ul>													
	<p>(3) 類題で確かめる。</p> <div data-bbox="491 488 954 633" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <math>\frac{2}{3} \text{ dl}</math>のペンキで、板を<math>\frac{5}{8} \text{ m}^2</math>ぬれました。このペンキ 1 dlでは、板を何<math>\text{m}^2</math>ぬれますか。         </div> <div data-bbox="491 633 954 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">0</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%; text-align: center;"><math>\frac{5}{8}</math></td> <td style="width: 25%; text-align: right;">(<math>\text{m}^2</math>)</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;"> ----- ----- ----- ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;"><math>\frac{2}{3}</math></td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: right;">(dl)</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>立式し、除数の逆数をかける方法で答えを出す。</li> <li>どちらかの考え方で除数の逆数をかけることを確かめさせる。</li> <li>余裕がある児童には、他の方法でも確かめるように指示する。</li> </ul>	0		$\frac{5}{8}$	( $\text{m}^2$ )	----- ----- ----- -----				0	$\frac{2}{3}$	1	(dl)	<div data-bbox="1002 434 1434 1059" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔知識・理解〕</p> <p>数直線図や計算のきまりを用いて、分数でわることの意味を理解することができる。(プリント)</p> <p>A: 除数の逆数をかける意味を式に表すことができる。</p> <p>B: 除数の逆数をかけることで答えを求めることができる。</p> <p>C: 板書をふり返らせながら、逆数をかければよいことに気づかせる。</p> </div>
0		$\frac{5}{8}$	( $\text{m}^2$ )											
----- ----- ----- -----														
0	$\frac{2}{3}$	1	(dl)											
<div data-bbox="248 1158 442 1211" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">まとめ</div>	<p>わかったことをまとめる。</p> <div data-bbox="491 1182 954 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分数÷分数の計算は、わる数の分母と分子を入れかえた数をかけて計算する。</p> </div> <p>教科書で学習内容をふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ児童の言葉でまとめる。</li> <li>教科書に出てくるまことさんとおこさんの考え方を本時の学習と結びつける。</li> </ul>												
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめる</p> <div data-bbox="248 1585 442 1639" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">適用</div>	<p>適用問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 P73 の            に取り組む。</li> </ul> <p>(1) <math>\frac{3}{8} \div \frac{2}{7}</math>    (2) <math>\frac{8}{9} \div \frac{3}{4}</math>    (3) <math>\frac{3}{5} \div \frac{5}{4}</math></p> <p><math>\frac{9}{8} \text{ m}</math>の重さが<math>\frac{2}{7} \text{ kg}</math>のホースがあります。このホース 1 mの重さは何kgですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早く終わった児童は、(4)～(6)にも挑戦するように指示する。</li> </ul>												
<div data-bbox="248 1845 442 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ふりかえり</div>	<p>学習のふりかえりをかく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想をノートに記入し、本時の学習をふり返る。</li> </ul>												

【板書計画】

問題 2

$\frac{3}{4}$  dl のペンキで、板を  $\frac{2}{5}$  m<sup>2</sup> ぬれました。  
このペンキ 1 dl では、板を何 m<sup>2</sup> ぬれますか。



式  $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$

課題

分数 ÷ 分数の計算のしかたを考えよう。

まとめ

分数 ÷ 分数の計算は、わる数の分母と分子を入れかえた数をかけて計算する。

練習問題

(1)  $\frac{3}{8} \div \frac{2}{7}$

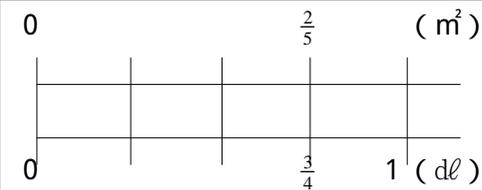
式  $\frac{2}{7} \div \frac{8}{9}$

(2)  $\frac{8}{9} \div \frac{3}{4}$

(3)  $\frac{3}{5} \div \frac{5}{4}$

問題

$\frac{2}{3}$  dl のペンキで、板を  $\frac{5}{8}$  m<sup>2</sup> ぬれました。  
このペンキ 1 dl では、板を何 m<sup>2</sup> ぬれますか。



式  $\frac{5}{8} \div \frac{2}{3}$

$\frac{1}{4}$  dl でぬれる面積を求めて

分数 ÷ 整数の形に直す考え

4 倍にする考え

(わり算のきまり)

式  $\frac{2}{5} \div 3 \times 4 = \frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}$

式  $(\frac{2}{5} \times 4) \div (\frac{3}{4} \times 4) = (\frac{2}{5} \times 4) \div 3$

A.  $\frac{8}{15}$  m<sup>2</sup>

$\frac{2 \times 4}{5 \times 3} = \frac{8}{15}$

A.  $\frac{8}{15}$  m<sup>2</sup>

$\frac{1}{3}$  dl でぬれる面積を求めて

分数 ÷ 整数の形に直す考え

3 倍にする考え

(わり算のきまり)

式  $\frac{5}{8} \div 2 \times 3 = \frac{5 \times 3}{8 \times 2} = \frac{15}{16}$

式  $(\frac{5}{8} \times 3) \div (\frac{2}{3} \times 3) = (\frac{5}{8} \times 3) \div 2$

A.  $\frac{15}{16}$  m<sup>2</sup>

$= \frac{5 \times 3}{8 \times 2} = \frac{15}{16}$

A.  $\frac{15}{16}$  m<sup>2</sup>

学習計画表 6年「分数のかけ算とわり算(2)」(全11時間)

時	1・2(本時)		3	4	5	1	2	1	2	3	1
小単元	分数のわり算		分数のわり算		時間と分数		分数の倍とかげ算・わり算		分数の倍とかげ算・わり算		まとめ
学習目標	数直線図や計算のきまりを用いて、分数÷分数の計算の仕方を考える。	数直線図や計算のきまりを用いて、分数でわることを意味を理解する。	計算の途中で約分できるときには、約分すると簡単なことを理解する。 整数÷分数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。	3口の分数の乗除混合計算の仕方を理解し、その計算ができる。	分数の乗除の立式について理解を深める。	時間の分数表示について理解する。	学習内容を確実に身につける。	比較量、基準量が分数の場合も、何倍かは除法で求められることを理解する。	倍を表す数が分数の場合も、何倍かに当たる大きさは基準量×何倍で求められることを理解する。	倍を表す数が分数の場合も、基準量は比較量÷何倍で求められることを理解する。	学習内容の理解をする。
例題	3/4dℓのペンキで、板を2/5mぬれました。このペンキ1dℓでは、板を何mぬれますか。	板を2/5mぬれました。このペンキ1dℓでは、板を何mぬれますか。	9/10÷3/4の計算の仕方をくふうしましょう。 5÷2/3の計算の仕方を考えましょう。	3/4÷6/5×1/5の計算の仕方をくふうしましょう。	7/4mの重さが2/5kgのホースがあります。この場面を使って、2人がわり算の問題を作りました。2人の問題は、それぞれどのような式になりますか。	3/4時間は何分ですか。 40分は何時間ですか。分数で表しましょう。		右の表のような長さの、3本のリボンがあります。赤のリボンの長さをもとにする、青のリボンと黄のリボンの長さは、それぞれ何倍ですか。	筆箱の代金は600円です。色鉛筆の代金は、筆箱の6/5倍、ノートの代金は、筆箱の3/5倍です。色鉛筆の代金とノートの代金を、それぞれ求めましょう。	ひろしさんは、900円の本を買いました。この本の値段は、雑誌の値段の5/3倍です。雑誌の値段は何円ですか。	
学習課題	分数÷分数の計算の仕方を考えよう。					分数で表された時間について考えよう。時刻を分数で表す方法を考えよう。		どんな計算をすればよいか考えよう。	どんな計算をすればよいか考えよう。	どんな計算をすればよいか考えよう。	
	既習事項		約分 整数 分数の計算	計算のきまり 約分	単位量あたりの大きさ	割合(倍の計算) 通分	分数のわり算 分数のかけ算 速さの公式 単位量あたりの大きさ	割合 分数のわり算 小数のわり算	割合 を使った式 分数のわり算 小数のわり算	割合 を使った式 分数のわり算	
学習内容	主な内容	・単位量あたりの大きさの考えから立式する。 ・面積図や数直線、計算のきまりなどの既習を用いて計算の仕方を考える。	・それぞれの考えを発表する。 ・商から逆数をかけていることに気づかせ、類題を解いて確認する。 ・まとめる。 ・練習問題を解く。	・計算の途中で約分できると気づかせ、そのよさを話し合う。 ・かけ算だけの式にするよさを確認する。 ・類題を解いて確認する。 ・まとめる 練習問題を解く。	・それぞれの問題を読み、立式をする。 ・立式した根拠を説明する。 ・問題の答えを求める。 ・練習問題を解く。	・3/4時間を時計をみて考え、答えを求める。 ・計算で求める方法を考える。 ・40分は何時間か、時計をみて考え、答えを求める。 ・計算で求める方法を考える。 ・まとめる。 練習問題を解く。	・「力をつけよう」に取り組む。	・問題を読み、比較量と基準量を捉え、立式をし答えを求める。 ・答えがあっているのか、倍の公式を使わないう証明する。 ・考えを発表する。 ・まとめる。 練習問題を解く。	・問題を読み、基準量と何倍かを捉え、立式をして答えを求める。 ・答えがあっているのか、さまざまな方法で証明する。 ・考えを発表する。 ・まとめる。 練習問題を解く。	・問題を読み、比較量と何倍かを捉え、立式をする。 ・考えを発表する。 ・まとめる。 練習問題を解く。	・「たしかめよう」に取り組む。
評価規準	(考)数直線図や計算のきまりを用いて、分数÷分数の計算の仕方を考えている。	(知)数直線図や計算のきまりを用いて、分数でわることを意味を理解することができる。	(表)整数÷分数の計算ができる。 (知)計算の途中で約分すると簡単に処理できることを理解する。	(表)3口の分数の乗除混合計算ができる。	(表)問題場面における数量の関係を、数直線図を用いて立式することができる。	(表)時間を分数表示して、問題解決に用いることができる。	(表)学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。	(考)比較量、基準量が分数の場合も、図などを用いることによって整数倍に帰着して考えている。	(考)分数倍の大きさを求める場合も、図などを用いることによって、整数倍などに帰着して考えている。 (表)基準量の分数倍にあたる大きさを、基準量×何倍の式で求めることができる。	(表)倍を表す数が分数の場合も、基準量を求めることができる。	(知)基本的な学習内容について理解している。

6年  
板書



壁面

